

連載

# チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

## 第21回

### とみざわきらら氏(漫画家&イラストレーター)

### 「好きなことだけしてたらロシアにいた私」

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

お絵かきが好き

今回は、若い女性の漫画家&イラストレーターとみざわきらら(旧名・富澤きらら)氏を紹介する。筆者との出会いは、いまから3年前になる。埼玉県蕨市の温泉施設のユニアル&ビジネスプラン作成に参画していたとき、かつてエコ・フューチャーセンターの企画&運営を一緒に行っていたN氏に紹介して頂いた。その後、交友が始まり、専門の漫画やイラストの仕事の相談のほか、北方四島の国後島や択捉島を訪問したことの講演会企画、また夫君・小山清雄さんの津軽三味線演奏会の実施、さらに夫妻によるイラストのワークショップ&日本文化体験会への参加など、関わりを持ってきた。2019年8月には洗楓座の取り組みとして「富澤きらら

の夏休み・マンガ描き方教室(港区後援)を、夏休みの宿題作成に向けた行事として行った。きらら氏(以下、きららさん)と表記)の略歴は、以下のとおりである。

2017年9月25日 国後島へ向かった



漫画・アニソンコスプレで交流活動をする為

か受賞もして賞金で食いつなぎ生活してきたという。漫画を描くことが好きであるゆえの頑張りであった。漫画では、

は、桃太郎はじめ犬や猿など物語を作画した。その表現は、少女漫画の細線によるペン画ではなく、子ども向けの優しいタッチの水彩画である。こうした取り組みで知名度も上がってきたように描くイラストも依頼があり、走るPR車となる。きららさんの作図は、表情と構図がしっかりしている。これは、デッサン力であり、人物や動物の描写が正しい。キャラクターのようにデフォルメした場合でも、表情描写と特徴化(特徴づけ)が上手だ。さらに言えば、色遣いである。したがって、記憶に定着し次第に愛着が生まれる。そういう意味では、日常の暮らしにも表れている。つまりは、日常がアニメに近い存在かもしれない。こうした特徴は、次に述べる友好親善のよう

で、島民が100人以上も来場し、大いに友好が図られたという【註4】。日本文化の紹介として

既述したが夫君・小山清雄さんは津軽三味線の小山流の師範として活躍している。二人の出会いには、ロシアで日本文化を伝えるイベントであった。実は、清雄さんの母の実家は、筆者と同じ山形県鶴岡市であり、清雄さんの出生地は鶴岡であるという。筆者には力強い応援がある。

津軽三味線と和太鼓、これに佐渡おけさの歌と踊りも加えて日本文化を伝える浅草でのイベントに筆者も参加したことがある。伝統として永らく演じられてきた芸能文化には、奥行きと秘められた深淵さを感じることがある。それから元気さをもたらそう。そうした感覚は動作からもロシア人も理解してもらえよう。きららさんは、日本文化イベントの開催案内やチラシのデザインにも携わっている。出会いがきっかけで二人三脚は、さらに

野球で実力を発揮し、個性や独創性が尊重される導線が引かれたに相応しい。デザインやアートの分野は、ペンと紙で出来る創作活動であり、まさに個性の表れである。きららさんが講師としてのイラストやキャラクターの描き方教室に参加した。筆者も、大室で教員免許を取るための実習で絵画を習ったことがある。好きなことはあるが、身に着いてはいない。きららさんの場合は、好きである漫画やイラストの道に苦勞を越える意欲で行ってきた。「ロシアのいまの時」代、オンラインで漫画やイラストの講座も広がっている。広く社会に個性が広まり個性豊かな生き方が日本や世界に広がることを願う。

【註1】とみざわきらら氏のプロフィール  
https://tomv1980228.wixsite.com/kirara/profile  
【註2】とみざわきらら氏のホームページ  
https://tomv1980228.wixsite.com/kirara/app  
【註3】オタク文化をロシア人に紹介するマンガ「シブシブ」歌う漫画家「富澤きらら」  
https://www.kobegaku.in.ac.jp/news/7f5b4fb  
【註4】神戸学院大学  
https://www.kobe.ac.jp/news/7f5b4fb

自己紹介の自作マンガ©とみざわきらら



「とみざわきらら」さんの夏休み・マンガ描き方教室(港区後援)を、夏休みの宿題作成に向けた行事として行った。きらら氏(以下、きららさん)と表記)の略歴は、以下のとおりである。

2017年9月25日 国後島へ向かった

漫画・アニソンコスプレで交流活動をする為

か受賞もして賞金で食いつなぎ生活してきたという。漫画を描くことが好きであるゆえの頑張りであった。漫画では、

は、桃太郎はじめ犬や猿など物語を作画した。その表現は、少女漫画の細線によるペン画ではなく、子ども向けの優しいタッチの水彩画である。こうした取り組みで知名度も上がってきたように描くイラストも依頼があり、走るPR車となる。きららさんの作図は、表情と構図がしっかりしている。これは、デッサン力であり、人物や動物の描写が正しい。キャラクターのようにデフォルメした場合でも、表情描写と特徴化(特徴づけ)が上手だ。さらに言えば、色遣いである。したがって、記憶に定着し次第に愛着が生まれる。そういう意味では、日常の暮らしにも表れている。つまりは、日常がアニメに近い存在かもしれない。こうした特徴は、次に述べる友好親善のよう

で、島民が100人以上も来場し、大いに友好が図られたという【註4】。日本文化の紹介として

既述したが夫君・小山清雄さんは津軽三味線の小山流の師範として活躍している。二人の出会いには、ロシアで日本文化を伝えるイベントであった。実は、清雄さんの母の実家は、筆者と同じ山形県鶴岡市であり、清雄さんの出生地は鶴岡であるという。筆者には力強い応援がある。

津軽三味線と和太鼓、これに佐渡おけさの歌と踊りも加えて日本文化を伝える浅草でのイベントに筆者も参加したことがある。伝統として永らく演じられてきた芸能文化には、奥行きと秘められた深淵さを感じることがある。それから元気さをもたらそう。そうした感覚は動作からもロシア人も理解してもらえよう。きららさんは、日本文化イベントの開催案内やチラシのデザインにも携わっている。出会いがきっかけで二人三脚は、さらに

野球で実力を発揮し、個性や独創性が尊重される導線が引かれたに相応しい。デザインやアートの分野は、ペンと紙で出来る創作活動であり、まさに個性の表れである。きららさんが講師としてのイラストやキャラクターの描き方教室に参加した。筆者も、大室で教員免許を取るための実習で絵画を習ったことがある。好きなことはあるが、身に着いてはいない。きららさんの場合は、好きである漫画やイラストの道に苦勞を越える意欲で行ってきた。『ロシアのいまの時』代、オンラインで漫画やイラストの講座も広がっている。広く社会に個性が広まり個性豊かな生き方が日本や世界に広がることを願う。

夫のパンフもデザインしている

「とみざわきらら」さんの夏休み・マンガ描き方教室(港区後援)を、夏休みの宿題作成に向けた行事として行った。きらら氏(以下、きららさん)と表記)の略歴は、以下のとおりである。

2017年9月25日 国後島へ向かった

漫画・アニソンコスプレで交流活動をする為

か受賞もして賞金で食いつなぎ生活してきたという。漫画を描くことが好きであるゆえの頑張りであった。漫画では、

は、桃太郎はじめ犬や猿など物語を作画した。その表現は、少女漫画の細線によるペン画ではなく、子ども向けの優しいタッチの水彩画である。こうした取り組みで知名度も上がってきたように描くイラストも依頼があり、走るPR車となる。きららさんの作図は、表情と構図がしっかりしている。これは、デッサン力であり、人物や動物の描写が正しい。キャラクターのようにデフォルメした場合でも、表情描写と特徴化(特徴づけ)が上手だ。さらに言えば、色遣いである。したがって、記憶に定着し次第に愛着が生まれる。そういう意味では、日常の暮らしにも表れている。つまりは、日常がアニメに近い存在かもしれない。こうした特徴は、次に述べる友好親善のよう

で、島民が100人以上も来場し、大いに友好が図られたという【註4】。日本文化の紹介として

既述したが夫君・小山清雄さんは津軽三味線の小山流の師範として活躍している。二人の出会いには、ロシアで日本文化を伝えるイベントであった。実は、清雄さんの母の実家は、筆者と同じ山形県鶴岡市であり、清雄さんの出生地は鶴岡であるという。筆者には力強い応援がある。

津軽三味線と和太鼓、これに佐渡おけさの歌と踊りも加えて日本文化を伝える浅草でのイベントに筆者も参加したことがある。伝統として永らく演じられてきた芸能文化には、奥行きと秘められた深淵さを感じることがある。それから元気さをもたらそう。そうした感覚は動作からもロシア人も理解してもらえよう。きららさんは、日本文化イベントの開催案内やチラシのデザインにも携わっている。出会いがきっかけで二人三脚は、さらに

野球で実力を発揮し、個性や独創性が尊重される導線が引かれたに相応しい。デザインやアートの分野は、ペンと紙で出来る創作活動であり、まさに個性の表れである。きららさんが講師としてのイラストやキャラクターの描き方教室に参加した。筆者も、大室で教員免許を取るための実習で絵画を習ったことがある。好きなことはあるが、身に着いてはいない。きららさんの場合は、好きである漫画やイラストの道に苦勞を越える意欲で行ってきた。『ロシアのいまの時』代、オンラインで漫画やイラストの講座も広がっている。広く社会に個性が広まり個性豊かな生き方が日本や世界に広がることを願う。



夫のパンフもデザインしている

「とみざわきらら」さんの夏休み・マンガ描き方教室(港区後援)を、夏休みの宿題作成に向けた行事として行った。きらら氏(以下、きららさん)と表記)の略歴は、以下のとおりである。